THE LADIES' JOURNAL OF EDUCATION.

驛遞局認可

明治二十年一月五日

定價金四錢

女學雜誌

第四十七號

每月三回發行

續文

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

目録

●〔女學叢誌〕年の始の緑言●〔中外新報〕十數件●〔學藝一斑〕幼兒敎育學○植物學一斑●〔對譯〕泰西の箴諺○爲す可らず●〔列女傳〕今泉歌の傳●〔雑記〕女子敎育說○育兒の栞○婦人の心得●〔新作物語〕巣守の妻（春のや主人）●〔家政要報〕侍女の事日用品相場●〔御伽草〕六人連の旅○數學問題○考物の題○前々號數學及び考物荅●〔寄書〕歌

◎女學叢誌

○年の始めの緑言

新たまの年たちかへりてハ時いまだ春ならざるも自と人の心もうらゝのよなり行き何となく萬づのことゞも改まりたる心地せられ殊に今年ハ世の波風穏かに天氣も晴れ續き氣候も例より寒からずしていと目でたしまづ年の始めの景況を述べんに新廷にありてハ昔ハ四方拜、供御藥、供御節供、朝賀、小朝拜元日の節會、内侍所御供など種々の儀式行はせられしとハ聞きつれど明治の昭代と開け來てハ繁を省きて簡に就かせたるもあるべく廢れたるを起させたるもあるべく大内山の嶺に棚引く九重の霞の奥ハ靆なる我々が知り得るところならねども一日の朝ハ疾より皇族大臣を始めまゐらせ文武の勅奏任官麝香間祗候の華族各國公使のかた〴〵孰れも夫人を伴はせてうち日さす赤阪の宮さす竹の青山の宮へ參賀ある有様ハ文官の大禮服武官の正服とも改正の新服にて夫人がたハ十の九まで西洋服を装はせ下髪緋の袴を着け給ひたるハいと稀れなりしと聞えぬ殊よ今年ハ武官がたの乘馬が太く逞しく見えたると夫人がたの洋服の綺羅びやかなりしハ見ごとにしてこれを見物せんと皇居の正門外に集ひたる老若男女ハ宛がら兩傍に人の堤をや築きたるかと疑ふばかりなりしといへり市中家々の軒にハ日章の國旗朝風に翻へり門飾りハ多く日本飾りにして西洋飾りハ僅かに銀行會社などにとゞまり追ひ羽根に顔黒くしたる乙女もあり凧揚げに餘念なく走りて躓き轉ぶ小童もあり年賀に往來する人の數ハ例より減じたりとハいへど屠蘇機嫌に一歩ハ高く一歩ハ低き年賀客もありて實に目出たく治まれる有がたき御代の姿とこそハ見えたりけれ扨てかく新年の概況を記しおきこれに就き記者が思ふふしを述べ立んにまづ新年の儀式ハ願くハ一日より行ひ果てゝ二日よりハ常の如くにてあらまほしゝとさへ思へど責てハ新年の祝日ハ三日までと定め四日より常のごとくなるべく舊時の如く五日も七日も十五日も殆んど一月中ハ何の日なり彼の日なりとて遊び暮さん事今の事繁き世となりてハよろしからずと思ふなり扨て

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

また年賀の往來は交際の上に於て必要なる儀式なれば貴顯がたの朝賀に夫人を伴ひそるのみならず平生に親しかる誰彼相互ひの間にても年賀には必ず夫婦うち連れて往來することゝならんには益々男女の交際も開けゆき且つは年賀の儀式をも重々しく思ひなすにいたるべし世に年賀申さんとて馳せ廻れる人々の有樣を見るに車或は馬に乗りたゞ玄關に名刺を投げ込み恰も郵便配夫たるものゝごときが多かれども斯くては交際上何の益あるべきぞさりとて一々に面話したらんには客も主人も事繁きに堪へざるべしとならば寧ろ西洋風に名刺とば狀袋に封じ込み郵便もて贈答するの優れるには如ざるなり左れども平生に親しき間柄のみは願くは夫婦うち連れて相互ひに往來して年賀の儀をば行はまほしゝと思ふなり扨てその席に於ても屠蘇とかの勸酒とかすゝめて虛禮を行はん事は望ましからず殊に禮服をも着すべき式日に顏赤らめ足もと揃はず言語も常に異るほどに醉ひたる狀は從來は屠蘇機嫌とて目出度かるべきも今日の文明社會となりてはいと醜き有樣にして禮節を紊る事甚しといふべし然れば茶菓の欵待にて互ひに禮容を正しくして賀詞を述べなば事足るべし總て我が邦にありては賀するといひ祝するとなればまたゞ酒くみかはして痛く醉つぶるゝを以て目出たしとも愉快なりともいへれど然ならぬ小民たらんには兎も角も苟りにも紳士たらんものゝ行ひにはあらずうたてかりける習はしなり且つ衣服なども勝れて綺羅を飾るに及ばざれども見苦しからぬまでには意をも用ふべき事なりかし記者も一日は年賀の爲めに此所彼所行き廻りたる途すがら洋服着て頭には毛糸もて編みたる帽子を冠りたるを一人二人見受けたりしが斯る帽子は常さへ外出に冠るべきものならぬに況して新年の祝日に斯く不體裁ならんは外人の見聞もいと恥かしき事なり是等は婦人がたの事ならねど今より追々に開け行く世の中にありてはかゝる事にまでも意を用ひ淑女令孃たらんものは況して文明ぶりの禮貌に習ひ給はん事こそ望ましけれこは是れ記者の心に浮ぶがまゝ年の始めの繰言を斯くは書記し侍りぬ

◎中外新報

○伊藤伯の夜會　同伯ならびに同梅子伯爵夫人には來る十五日午後九時より貴顯紳士貴婦令孃を永田町なる官邸に招待して盛んなる夜會を催ほせられ踏舞の催しもありと聞きたるが貴婦人方は昨暮までに大抵洋服の新調ありしといへば最早

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

和服にて會せらるゝ貴婦人はあらざるべし

○琴瑟會　大山大臣には昨夜同邸に於て題號の會を催ほされ貴婦人がたの參會ありしもの甚だ多かりしと聞えぬ

○女學校の監督法　文部省にては今度公立女學校の條例を設けて一般女子の教育を同一ならしめその監督法をも嚴重になすべしとて目下歐米各國の成規など取調べ中なりといふ

○女官の任命　樹下權掌侍は掌侍に敍カチ氏は權掌侍に津守好氏は權掌侍心得（年俸六百圓）に孰れも去る十二月廿七日に任ぜられたり

○英人羽子板の畫を見て日本婦人を評す　英人何某氏は我邦の女子がもて翫べる羽子板を見て日本婦人の氣風の最も下位にあるを知るべしと評したりといふを聞くに羽子板の畫は何れも美事にして外人の目を驚かすばかりなるもろもろの畫様は俳優の似顔よりして日本人殊に婦人は延喜とかいひて聊かの事をも氣に掛ける氣風あるにも拘はらずそのもて翫ぶ所の畫は多くは野鄙猥褻にして不吉なる刄傷の體あり道行の狀あり或は盜賊あり或は爭闘者ありて固より俳優の似顔を主とするものなるがゆゑにその畫様には懸念せざるなりとはいへただに俳優の相貌のみを評判して畫様の如何を顧みざるはいと不審し思ふに日本の婦女子中にはかゝる野鄙猥褻にして不吉なる事を嫌ふものなく古への德高く切著き人を欽慕するの情もなく花鳥を愛するの優美ある心もなきものと見えたりされば日本婦人の地位の低かるを知るべし婦女幼少のころより斯る氣風に染みたるがゆゑに今更ら之が改良を計らんとするものなきは是非もなき次第なりとはいへ婦人教育上の妨害たる事少なからざるなりと評せし由に聞きたるが誠にさる道理よていまだかゝる事の改良を思ひたつものなきは歎かはしき事の限りなりこれに就きても演劇の改良もまた忽せにすべからず

○女子專門學校　木村まつ、木村ひで、麓みゑ等の數氏が發起にて今度小石川區諏訪町三十一番地へ東京女子專門學校といふを設立せられたるよしなるが同校は教員ろの他一切婦人のみにして開校式は本月中旬ごろに行はるゝよし

○二位の局　從二位中山慶子の方は去る廿二日宮內省に於て御用につき京都へさし遣はさるゝ旨を命ぜられたりと報知新聞に見ゆ

○下田歌子　華族女學校學監同氏は冬季休業中熱海行を思たち去月廿六日ゟ出立せられたり同校は來る十一日より始業とのこと

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

○婦人洋服裁縫女學校　の事は前號にも時事新報より抄出したりしが今また聞く所に據れば平島喜平氏が校長にて幹事には近藤りん子教員兼職　長には多年佛國公使館の裁縫方に雇はれ居たりし澤田虎松氏等にて別に語學の一科を設け獨逸人ミスツルツを雇ひ入るゝよしにてその位置は京橋區山城町四番地にして本月中旬ごろ開校式を行ふはずなりといふ

○佛語女學校　鐘ヶ江祿子氏の發起にて今度麴町區下六番町四十五番地へ創設ある佛語女學校は追々入學の申し込みも多かるにより愈々來る十五日に開校式を行はんと準備中のよしなるが同校の目的は西洋文明國女子の交際には專ら佛西語を用ふる習ひにして近ごろ我が邦も漸々外人との交際も開けゆくべきに就ては女子に佛西語を學ばしむるはまた必要の事なりといふにありて重に貴婦人令孃の入學を許すとの事なり扨て校長は鐘ヶ江祿子幹事は後藤梢子(粂二郎氏の令孃)三守益子の諸氏教師は佛國人レチニー、クレスペン及びマリー、クラップの兩貴女助教は伊澤峯子氏等にて總て男子を交へず且つ生徒の數と當分の中五十名と定められしよし

○牛込英和學校　牛込横寺町なる同校にてはこれまで男子のみに授業をなし來りしを今月よりは別に女子の教場を設け婦人に數十名の入學を許す事となりしよし

○東洋英和女學校　の新築落成せしを以て去月廿三日に開校式を行はれけりその大要を記さんに七時半となりしころ英人イビー氏の祈禱を以て式を始め夫より生徒の唱歌ピヤノの合奏オルガンの獨奏或は演舌などもあり英和對話問答英詩文の暗誦ピヤノに合したるクラブ体操などありて最後に宣教師マクドナルド氏の演説あり次にカクラン氏の祈禱を以て式を終れりこの日來會ありしは生徒の親戚その他學校に緣故ある内外の紳士貴婦令孃凡そ三百餘人なりし附けて云ふ同校は明治十七年十月中メソヂスト教會の創立なるが僅か二年間にして斯く盛大となりしは賀すべきの至りなり創立の時は外國教師一人日本教師四五人なりし處今は校長スペンサー孃を始め外國教師五人日本教師十三人にて生徒は寄宿生と外來生とを合し二百餘名なりと聞ぬ

○明治女學校　同校にては去月十六日より廿日迄生徒の定期試驗を行はれたるよしなるが試驗中大隈重信氏及び夫人、中嶋トシ子、またツルー、キダの兩米國婦人等參觀に赴むかれ大隈夫人は優等の女生徒へ褒賞として金十圓を寄附せられたるよしに聞く

五

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

○大日本教育會　にては本月第二日曜日即ち九日午後一時より一橋外帝國大學講義室に於て常集會を開きその討議題は小學に於て男女共學の可否演説の題は女子の教育（矢田部良吉氏）等なるよし

○本誌附録　本誌には美麗なる銅板の附録を添えたり

◎學藝一斑

○幼兒教育學

第五章　智育

（教育學の主義の智識を要する事及び如何にしてこの智識を得らるべきかの事）　総て教育者は教育を受るものゝ性質をよく知らずんばあらざるなり若しこれを知らざる時は如何にしてか教育をなし得べき教育者たるものは能力の運動を承知すべき筈なれども意を用ひざれは決してこれを知る事難かるべし又た教育中には避くべからざる種々の妨害に遭遇しその時の行爲を誤つときも又た之を回復なし難き事なり教育學の主義に基かざる教育法はたゞ偶然のことにして假令ろの法正しかるもこれも又た眞の偶然に出たるにて眞正のものにはあらざるなりたゞ熟煉のみを以て教育するさへ悉く不良のものゝみとはいひ難かるに一定の法則に從ふときはその善良なることを多辨を要せざるべし然れども熟煉のみを以て教育するは定則の基礎と精神とを會得して教育に從事するよりも其功甚だ少からざるを得ず且つ又た如何に篤く信ずるとも能く理會せざるところの課業に從ふよりも合理の教育法に從ふのた遙かに勝れりとす又た我々が幼兒を教育するものに道理なき事を求むるにはあらず殊に未熟のうちの勢力は至て強きものあるがゆゑ未熟中に総ての誤を正すべき事なりたゞに學問上の智識のみは決して必要にあらず人の性質を研究する事のみは純粋の心理學上の事にして教育上の事にはあらず教育學は総て不確なることを及び實際に適切ならざることを厭ふなりただ適度の學修に由て教育者に必要なる智識を得らるべくまた適度の研究と經驗とを以て之を確定すべきなり

○植物學一斑　植物の食物

植物の食物は氣體と流動体のものにして土中水中或は空氣中より吸ひ取ることなり流動体の食物は大抵根より吸ひ上げ氣体は葉より吸取れり

氣体の食物は重に空氣中にある炭酸瓦斯より成立ち流動体は種々の鹽類を溶解したる水にして其中重なるものは窒素、燐、

六

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

硫黄、ポッタース、鐵等なり是等のものハ植物の生長せる土中に含有するといへども水に溶解したるにあらざれバ決して根より吸ひ入るゝ事能はず

根より吸ひ上ぐる流動体ハ前に上げたる物質を溶解したる水にして之を植物液といひ茎及び枝などを傳ひて上り葉の細包或ハ葉なき部分の植物の外面に達せり扨て吸上げらるゝ時ハ細包の袋を起して細包より細包に通じまた植物中の管中を經て上れり然れどもまた細包中に入らずして細包と細包との間に多量の水を含有せり

空氣中より炭酸瓦斯を吸入るゝハ葉の働きにして葉を組織する細包中に入り大陽の光線を受けて化學上の變化を生じ炭酸ハ變化して炭素と止め酸素を空氣中に吐き出せり

植物液ハ植物の外面に達し大陽の温氣を受けて蒸發氣となり葉或ハ其の他外面にある極めて小さき穴より蒸發せり此小穴を氣穴といふ此穴ハ葉の裏面に於て殊に多しとす林檎の葉にハ凡そ十万以上の穴あり斯るごとく蒸發するが爲め炎天に當りても植物と冷かに保ち其の蒸發せる水量も少なからず向日葵のごときハ廿四時間に六合餘りの水を蒸發し柏などハ同時間に幾舛の水を蒸發さするといふ

MAXIMS & PROVERBS.

泰西の箴諺

(甲) A living dog is better than a dead lion.
㈠ ㈡ ㈦ ㈥ ㈤ ㈢ ㈣

〔意譯〕死せる獅子よりも生ける犬がよし

DON'T (NASUEKARAZU).

Affectionately addressed to Womankind.

DON'T cover your fingers with finger-ring.
㈥ ㈤ ㈢ ㈣ ㈡ ㈠
A few well-chosen rings give elegance and beauty
㈠ ㈡ ㈢ ㈨ ㈥ ㈦ ㈧
to the hand; many rings disfigure it, while the
㈤ ㈣ (十八) (十九) (廿一) (二十) (十七)
ostentation of such a display is peculiarly vulgar.
(十二) (十三) ㈩ (十一) (十六) (十四) (十五)
And what are we to say when many-ringed fingers
㈠ ㈩ (十三) ㈨ (十二) (十一) ㈧ ㈡ ㈢
show a neglect of the wash-basin?
㈦ ㈥ ㈤ ㈣

◎ 對譯

(甲)㈠生たる㈡犬ハ㈢死たる㈣獅子㈤よりも㈥より良く㈦有

(勿の語譯)㈠指輪ヲ㈡以テ㈢汝の㈣指ヲ㈤蔽ふ㈥勿レ●㈠僅の㈡能く選びたる㈢指輪ハ㈣手ニ㈤迄㈥雅致㈦而㈧美麗サ㈨與フ㈩斯の如き(十一)顯著(十二)の(十三)外見ハ(十四)特よ(十五)卑賤デ(十六)有(十七)間(十八)多の(十九)指輪(二十)夫ヲ(廿一)醜くす●㈠而㈡多く指輪を鉗たる㈢指ガ㈣手洗盤㈤の㈥怠りヲ㈦顯す㈧時㈨我々ハ㈩如何に(十一)云(十二)べく(十三)有(?カ)

七

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

◎列女傳

○今泉歌の傳

世の中を渡りくらべて今ぞ知る阿波の鳴門ハ波風もなしと昔の人のよみし如く世渡りのくるしきハ今更にいふ迄もあらねど男すら行末のそつる泊如何と思ひ煩へるを舵とり直していと平らに安らけく灘過ぎたる愛たき物語こそ有りけれ京橋區の東湊町一丁目に舶來船具を商ふ今泉宗兵衞といへるハ代々船具の事に委しくて富有に世を送りしが我邦のありのまゝの船ハ程遠からず波路にあとを絶つべしなどかしこく思ひ定めで専ら舶來の船具のみと買入れて購客をまつに時早くてまださばかりハ造船のわざも進まず西洋形の船とても多からねバ商ひの道頓に衰へていひ甲斐なきさまになれるのみか種々憂き事の重りて終に病の蓐に臥し十四年の十一月はじめ比よる波の泡と消失たるあとに遺れるハ七十二になれる老母と妻の歌とのみなりけり店の事ども管理しれる者もあれど負債も二千餘圓あれバ此あるかたちにて維持つゞけむ事ハ思ひもよらずとて暇をこへば親戚の者も皆そと道理と思ふのみにて此店の再び立榮えむことハいと難しとぞ云ひあへりける歌ハこの時齡廿八にて容貌も醜くからず磯山陰の遅櫻のよはひ殘れるさまなれば入夫といふ者にならむなど密に人して言入るゝも有りしかどふつに承諾でつれなくのみ應へしかバ今の程こそ操づくりて斯もいへ別れし夫の事も沖ゆく船の遠ざかるにつけてハ忘れ果ぬべきものとなど口さがなく云ひあへりしが然るとハ耳にも入れず老の涙よる亡夫の母を厚く養ひながら小厮一人を店におきてありし商ひの道に勤め勵めど物の名を知るぞにも女にしてハ容易からぬに仕入などいふことも多くハ外國人にひきあふ事なれば意のまゝに爲し得べきにもあらず一年許が程ハ只さる筋に便なくて猛くハ思ひ定めながらもさそがに心細くいかよかせましと歎かるゝ事なども有しに亡夫の朋友にて猿樂町あたりに住める年たけたる人の熟く此ありさまを見てかたはら痛くや思ひけむ或日訪來ていへるやう活業の道ハいと多なれば女手にてなし得る事も數々あれど此船具の事などハ男にてもわぐる帆綱の只ひとすぢに意を繫ぎおきてこそともかうもすべけれ買ふも賣るも荒々しき人をあひてになす事なれバ不相應ハいふまでもあらず年久しくなれたる事を改むるハ人の思ハむとも心苦しと思ふハさる事ながら誠に能く事のこゝろを知る者ハ活業をかへたりとて何かハ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

怪しまむ殊に助くる人もなき捨小船の沖に漂ふさまゝて斯てあらば終には食料も盡きはて果敢なき終を見るに至りぬべし早く引く人の手に縋りて生命ながらふる術考へずは底の水屑となる如くいと口惜かりぬべくなど戯言まじへていふに浪華江のあしかれとての意にはあらずと知れど歌は實ともいはず猶網のりのくり返し考へての後にこそと應へて其人をかへしつゝ思ふやう今の世の中にして何事をなすとも心安くて利益多きは有るべくもあらず男女によりて商ひは便不便あるとは然る事なれど同じ憂きつらさを見るならば斯くてあるこそ本意なれ彼なにがしの詠せ賜へる歌にひと方に心定めよさよ千鳥いづくの浦か波風はなきと

九

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

はから心迷へる時のよきさとしでとなれ誰もなすべき事ならば功ともならじ爲し難き事をなし遂るこそ苦しきめを見る甲斐はあれ龍の腮の珠を得し海士の子も生命にかへてこそ後の世にも名を遺しつれなど雄々しく思ひなりて是よりは一層商ひに心をつけ外國人の商館といふにもゆき通ひなれて仕入などするやうになれるに五百石以上の日本形の船造ると禁止らるゝなどやう〳〵西洋形の船の數添ふべき機會にむかへるに斯る商ひする者もさばかりは多からねば去歳よりは今年と購客も多くなるに心いさみて朝ゆふのさゝやかの事にも費を省きてひたぶるに儉約にとり賄ひしかば去歳までには多くの貯蓄もいできて彼二千餘圓もこと〳〵く返し盡しゝかば今は稍心安しとて久しく疎かりし親戚を初め猿樂町の何某をさへ招待て年忘れとかいふ酒宴まうけていと賑はしう酌かはしつつ是まで五年ばかりが程の憂さ悲しさと語り出やう〳〵此娼しく樂しき瀬にあへるとをいへば嚢になりはひにつけ貞操につけて危ぶみ思ひてかにかくにいへる人も此愛たき心ばへに愧らひながらも痛く悅びあひつゝ互に類ひなき功をほめて醉ひをつくしたるが主人の名によりてにや斯る一首をつゝじりうたひたるも有りしと

船長がたのむみさをのひと筋にさしも湊を違へざりけむ

誠に苦しき灘をこえて福壽海の湊によせしは此船長の力ひとつにこそありけれと同じ筵に列りやしつらむと思ふ人のあるかたにて語りしを傍聽しつるまゝに斯くは記しつけぬ

前號七百五十六丁上段二行恭らせむは參らせむ同十一行侍りぬには侍らぬに下段十行露深く懸る人は懸る人の誤植なり

◎雜記

○女子敎育說

左に掲ぐるものは獨逸の一婦人といへる名前にて去るところガゼット新聞に載せたるものあり疾くに掲ぐべき筈なりしを編者が翻譯の都合により漸く茲に載する事となりぬ

高等の敎育を受くべき世の娘子達の母たる人々に反對し妾は世に唱ふる高等女學校を長く閉鎖したらんには良かるべしといはんと欲するなり斯る學校生徒の得失如何を見るに數多の學科を修むるが爲めに毎日凡そ五六時間を費しその餘暇は皆良なる女傅の看護を受けて復習をなし爲めに十年間の長きを消耗し然る后十分才藝ある女子なりと稱贊せられその母たる

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

ものもまた喜び一かたならざるなり女子の年若くて清麗なる間ハ宴會踏舞の事の外ハ家に在りて求むるところなくまた生計の辛苦をば更らに意となさず婚姻の事などに至りてハ暫く後邊に抛ちて顧みざることとなれども到底人に嫁することハ免かれざる所なれば遲かれ早かれ嚮きに受たる虚飾の教育ハ生計上實際のことに適せざるの時來るべしさらば世界の學校に於てその事業假も適切なるものを擇び子供の時よりして之に由て敎育せずんばあらざるなり女傳の事ハ今こゝに論せず何くれと殘る方なく知り得たる女傳を得んとするハ惡しき事の限りといふべし扨て世の子女たるものゝ高等學校に於て學ぶところハ何物なるか地理文學歷史などの諸學科にしてこれ皆一生必需のことにあらざるなり高等女學校生徒が能く世界の地理と諳んじ諸國の山々の高さ卑さより各都府の人口の多き少きなどを記憶するハ驚くべくまた歷史學に至りてハ史學家のみに必要なる事柄を覺え或る戰狀などよく記憶して談論するところを以てすれば殆んど人々をして兵學家ならんかと疑ハしむるばかりなり博物學に於てハ能く羅甸の名稱を綴り空に翔り地に走る動物ハ悉くその性狀を詳かにし以て父母師傅の誇るところとなれり獨逸古代の文學ハ固より近ごろのシルレル、ギユーテのごとき大家の文學ハ貴重して學ばしむることとわるもろの他諸名家の文をば棄て顧みざるものゝ如し文學ハ固より女子敎育の基本にして闕べからざるものなれば詩と文とを論せず近代の著書といへどもその善良なるものハ擇んで讀しむること必要なりこれ徒らに無用の稗史小說に心を奪はれずして女子の眞の德を養成せしめん事と欲すればなりまた算術ハ常に婦人の短所たりと稱せれども學校に在りてハよく六かしき平方根或ハ代數の問題を解說せり然るに他日一家の出入を計算するに當りてハこれを能くせざるもの多く日々生計上の勘定に熟するまでハ物品と買ふにも多くの人に欺かれざるを得ず

（以下次號）

○育兒の種

乳母の年齡ハ廿年以上三十歲以内をよろしとそこの年齡にありてハ乳の性良く隨つて排泄もまた多量なるがゆゑなり我が兒の生れたる月日と乳母の產みたる月日と餘り異らざるとよしとす即ち我が兒の產れてより一月なれバ產後一月前後の乳母と選ぶべし產後半年若くハ一年と歷たるものハ乳汁濃く過ぎて小兒の胃腑に適せず消化よろしからざれバ惡しゝとも然れども我が兒ハ既に五六ケ月も過ぎたるに產後いまだ日を經

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

ざる乳母はその乳薄くして小兒を養ふに足らざるがゆゑ雇ふべからず世間には半乳と唱へ下婢を兼ね給金僅少にして產後凡そ一年或はその以後の乳母を雇ふもの間々あれどもこれは小兒の生育に害あるがゆゑ本乳と稱ふる乳母專務のものを選ぶべしまた乳母を雇はんにはその生兒を觀ること肝要なりその兒の生育あしく皮膚の發疹或は頭瘡あるものは宜しからずまたその兒遺傳の梅毒、癩病、瘰癧、癌腫あるひは肺病、心臟病貧血病などにて死せしものは甚だあしゝまた乳母の行狀正しきものを選び乱惰不深切なる者を雇ふべからず產後月經を視るものは乳の性に變化を起し子供に害ありと知るべし

扨また乳の哺せ方は產後一二ヶ月を過ぐる後は夜乳を廢め母子ともに安眠をなし晝間の疲れを復すべしされば午後十時を限り翌朝黎明ごろまでは與ふべからず深更までも度々哺しむるときは母子の健康を害すべしされども餘り早く夜乳を廢する時は却て害ある事あれば實際の摸樣により暫く見合すことあるべし稚兒の產後一二週間を歷るまでは泣くことの外智惠なきものなるがゆゑ慈母たり乳母たるもの時々小兒の口に乳房を哺ましめ吸乳を促すべし一時に多量を與ふるよりも屢々少量を與ふるをよしとす扨てまた乳房不潔なる時は鵞口瘡を生ずることありて乳を哺ましむる妨となり甚しきはこれが爲め死亡に至ることあれば哺ましむる前に乳房をよく拭ひて淸潔になし且乳を哺ましめたる後小兒の口を軟かき布片に淸水を含まして拭ふべし扨て乳を與ふる刻限を述べんに一二ヶ月のころは一時間毎に一回三ヶ月より五ヶ月までは二時間毎に一回與ふるを定度なりとそ七ヶ月のころより追々齒を生ずるものなるがゆゑ乳離れの豫備として乳汁の外に後に述ぶる人工食物を一晝夜に二回または三回づゝ用ふること西洋にては生育よき小兒一般の方法なり然れども我が邦にては生育よき小兒といへども自づから彼の國々の小兒に劣るべければ強ちにこの法に隨ひがたし故に概して滿十二ヶ月ごろより乳離れの用意を始めそのうち一二ヶ月の生育に注意し若し生育宜しからざれば人工食物と廢め乳汁のみを分量と增し與ふべし

母の乳また乳母の乳ともに小兒に相應せざるときはよき牛乳と以て養育するをよしとそ（小兒の体質により良き牛乳も尙は相應せぬことも罕にあり或はこれを買ひ求めがたき事情のものあり假令買ひ得るも養育人の手廻り兼て吸乳瓶の掃除など行屆かず良き乳も惡くして與ふるごとき事ありては却て與へざるに如かざるがゆゑ是等の事故ある時は止むを得ず後に述

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

る人工食物を以て養育すべし）牛乳を用ひんには無病の若牛にして成るべくは一頭より搾り取りたる新鮮きものを用ふべし必ず數頭より搾り取りたる混せ乳を與ふべからず若し小兒の大便秘結する時は重炭酸曹達少量を和して哺ましむべしまた乳汁變敗そべき恐れある時或ひは小兒の下利し易き時は石灰水少量を加へて與ふべし良き生乳なき時は煉稠乳（コンデンスミルク）を稀釋して生乳に代用すべし

生牛乳は人の乳に比ぶるに過量の乾酪質脂肪と含み砂糖分僅かなりされば小兒の消化力いまだ充分ならざるに始めより純乳と與ふるは反て害あるも益なし必ず温湯を以て稀釋し攝氏三十度より三十七度位に温め適宜に白砂糖を交加て與ふべしその温湯と砂糖と牛乳との一日の分量は小兒の大小強弱に依て異れども大略の割合は左のごとし

（小兒の年齢）	（牛乳の分量）	（温湯の分量）	（砂糖の分量）
二日目より三十日まで	五十五匁	百四十匁	壹匁二分五厘
二ケ月	五十匁	百三十五匁	一匁四分二厘五
三ケ月	七十匁	百三十匁	一匁二分五厘
四ケ月	八十五匁	百廿五匁	一匁二分五厘
五ケ月	九十匁	百十二匁五	一匁七厘五毛
六ケ月	百五匁	百五匁	同
七ケ月	百五匁	九十二匁五	同
八ケ月	百四十匁	百五匁	一匁二分五厘
九ケ月	同	同	同
十ケ月	同	九十五匁	壹匁
十一月	同	同	同
十二月	同	八十七匁五	同

獨逸國にては五ケ月以後は純生牛乳を用ふることゝなり居れども前にも述ぶるごとく我が邦の小兒は生育よき小兒といへども自から劣れるところなしとせざれば濃厚に過ぐる牛乳を哺ましむるは胃腑に適せずゆゑに前の表に隨ひろの割合を以て與ふるを佳とす

煉稠乳（コンデンスミルク）には歐洲、亞米利加、日本製の別ちありて歐洲製は老人に適し米國製は小兒に相應するがゆゑにその器に鷲の印あるを目印として買求むべし日本製も精々白色のものは用ひてよし總て黄色のものは用ふべからず（未完）

○婦人の心得（對譯欄内の意譯）

指を蔽ひ隱すまでに多くの指輪を持つべからず精選の指輪僅かにて手先の雅致と美麗とを粧ふに足れり餘りに外見を飾り立たるは賤しきものなれば指輪の多過ぎるは却て醜きものと知るべし如何に指輪の多かるとも手洗など怠りて淨らかならぬときは我々は之を如何にかいふべき

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

◎新作物語

○巣守の妻（前號の續）　　春のや　主人　稿

お民ハ口惜げに涙含みて「斯んなお話を云やうものならキットお慈母君のお氣に障らう言ふまい〳〵と思ふたなれどお藏し申してハ尚は更すまねば…アノウそれからしてお茶屋へ往ッてお晝にお晝食をしました時お長さんと御細君さんとワシテ妾と後に殘るとあのお長さんが妾に向ッてお前さんハ久しい間水屋に奉公してお出だッたさうだッシテ新さんの御細君さんださうだが定めし御亭主が御留主であるからヤレ淋しからうのなんのと云ッて怪アしく厭身らしいことばのしいッて「ム、然んな事であらうと思ッたろの時お前ハまた何といひましたへ「イ、エ妾ハお嫁にまゐッたのぢやァありません眞の御厄介になります訃しで然らいふ譯なんぢやァありませんト「フム然らいッたら「サァ然らいひますとあの瀧口の御細君さんがそれが眞實なら幸ひのことがある妾の弟ハまだ獨身で色々不自由で困ッてゐるがそれぢやァ妾からもお隱居さん（越野をいふ）に話すが如何だへお…お妾に往く氣ハ無いのと（覺えず悔しさうに聲を曇らせ）妾ぐやァ悔しくッて悔しくッテ…その上、新さんの御細君になッた所が到底ハ饜られる基であるの、學者の御細君になるのハ損だの。妾の舍弟ハあゝだの斯だの、役者の福助とかに似て居るのなんのと人を馬鹿にして色々なことを」

越野ハ我知らず膝立直し前へと乘出さうと氣ハ揉めども片手ハ全然いふ事を聽ねば心ハ乘だしても手ハブラ〳〵、體がきかぬだけに無念も一倍「万一そんな事がありハせぬかと內々心配して居ました通り案の定、人を輕蔑て、お前ハ兎も角もこの越野を、人人…人を蹈附に云…云……云（急けバ急くだけに意地の惡い舌なり）お前ろれからして如何しました「生れてから今日が日まで今まで大阪の養母さんに苛められた事ハありますけれどこんな悔しいと思ッた事ハ…モウ〳〵何樣なことがあッても死んでもお芝居へハまゐるまいと思ッて（芝居が云た故でもなし扨も芝居こそトンダ迷惑な役廻りなり）ですけれども腹を立て直に歸るのも不䉦だしジッと我慢をして泣きたいのを堪へて故意と表ばかし見て居ますとツッと盗むやうに何時の間にの二人ハお芝居へ往ッて云まひ妾ひとりきりに成ましたもゑチャ〳〵如何せうと思ッて居ますとあのお長さんの叔父ざとのいふ年の若い人が上ッて來て倚々中幕に

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

い間があるマア〳〵爰に居てお話
をなさいヨ今度ハ中幕で面白くハ
ないお長さんも今に來るからマア
〳〵お菓子でもなんのトいッてそ
れから色々な事をいッて妾ハ間
が悪くッて如何しやうかと思ッて
ゐれから馴々しいことをいッて遊
びに來いなんのとんッてそれから
傍へ來て妾の手を……(お民ハ聲
をにじませて)慈母さまの仰せに
背いて寔に濟ないと思ひましたけ
れどあんまり悔しいから大きな聲
じてこれでも妾ハ旦那がありま
す失敬な人だ知りません、といッ
て直にかけ下りて下駄を貰ひ夢中
で獨りッきり歸りました嫁だとい
ふなよと被仰ッたけれどッィ…慈
母さま何卒御堪忍……
トいひさして又も打臥してうち泣

十五

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

くめり四度路もどろの物語よく筋褄ハ解らねどもお民の胸とその場の樣子ハいはぬハいふに彌まさるその面色にぞ現はれたる扨ハと始終を推察せし越野ハ共に口惜し涙「それで瀧口の腹が讀めたわの御細君の舍弟といふのハ小供の時からして放蕩者親さへ持あまして居たとの事貌ハ奇麗だし口前ハよし一寸見たところハ華族さまのやうだが何してしやうのない道樂もの、それでハろの男の玩具にせうとてお前とお芝居まで連だしたのだ、それにしても如何いふ譯で故意〳〵ろの樣に耻をかゝせて……妾がこの病氣で此樣でなくバ」この儘うち棄て置くものかト膝を握りつめて遺憾の落涙「ろれにつけこれにつけ悴が傍に居たらしやうもあらうに何時かの郵便の文面でハまたハ一年半歸らぬとの報知ア、此樣子おや息のあるうちにハ「ヱ「息苦しいお湯でもお呉れな

子を見ること親に如ず子の心ハ親ころ知れと古人がいひ置きしも寔なるかな性質遺傳の事眞實なりせば親子ろの氣象の相似たるもあるべし已にろの氣象が似かよひたらんにハ同じ心をもて同じ肚を見るなりろの肚の裏を見透し得るもこれを不思議なりといふ可らず越野は性質が慧敏なりしに久しく病臥して神濟みたりされば神經の作用が過敏になりて兎角よ過去未來を考へ勝なり悴ハ何として亞米利加より俄かに英吉利へハ廻りまけん假に悴の氣に成代りて見んにお民もあり我身もあり故鄕が慕はしくてならぬが當然それにフッ・りと忘れたやうに稀々郵便ハよこしながら民へハ一度かぎり手紙もよこさず如何いふ譯であるか不思議なこと若や今更に氣が換ッて厭氣が萌したでハあるまいかろれも大阪に居た時分のあのお坊ちやんのお民だやと思ふてろれで氣が換ッた譯でハないか寧そのごろのお民の孝行我身の去年からの病氣の樣子われが看護の委しい話をあちらへ郵便で知した事なら、ろれを思ふにもこの難病ニ、マアこの手めが」と手をながめて天さへやう〳〵よ怨めしうなり行く病さてハ賢不肖の差別もなく總て愚痴ッぽくなると見えたり

◎家政要報

○侍女の事　この程着したる英國の女皇新聞に家婦の侍女と題して侍女を召使ふ心得とあるべき事どもを掲げたれバ左に譯出して參考よ供すべし我が邦にても小間使などを召使ふ心得ともなりまさ彼の國の風俗をも知り且つハ現今のごとく益々衣食住の改良に赴く時勢に際りてハ隨て侍女とも漸々に

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

改進せしめずては日々の使用に不便多かるべければその摸範の一端ともなりぬべし

貴婦令孃の侍女たるものゝ職務は數多くして六かしく且つまた輕々しき事にはあらざるありされば此奉公をなす前に充分の修業をなすべきことにしてこの修業なきものは決して奉公を望むべからず一般に貴婦人の侍女たるものは氣の利きたるものならざるを得ず常に侍女を雇ひ入るゝときは容貌も醜くからず体格丈夫にして丈け低からず行儀よく辨舌爽かに鋭敏なるものを選ぶべし扨てまた侍女は仕立物のこと衣服裝飾及び束髮法の心得なくんばあらず斯ることは時々の流行に隨ひ變りゆくものなるがゆゑ一度心得たるのみにては足れりとなさず少くも年に一兩度はその專門家に就て學ぶべし若し主婦に隨ふて旅行することあらば滯留の地に着するや否その地にて流行の束髮法を學び滯留中も絕えず流行の變りに意を用ひ主婦の粧飾のみならず侍女もまたその地の流行に從ふべし假令主婦は侍女の衣服に意を留めざるも常に小奇麗なる衣服を着すべし貴婦人の侍女は他の婢女と違ひ更紗の衣服を着せず鼠色鳶色茶或は青黑などのごとく餘り判然とせざる色の服を着し帽子と冠となかるべしといへども大抵時計、鎖、耳輪、胸飾りなどの身分相應のものは許しあり言語も餘り高聲ならずして叮寧ならんことを要す（以下次號）

○甲斐絹の相場　は稀物五圓、上四圓七十五錢、中四圓四十錢、下三圓七拾錢ぐゐなりといふ

○呉服物　目下の相場は京都白羽二重一疋六丈目方百五十目のもの十圓五十錢より十二圓、近江長濱および丹後の白縮緬中巾一疋（四丈八尺）にて十七八圓より廿二圓、八王子白一樂織一反（三丈）に付七圓廿五錢より八圓五十錢、信州白斜子一疋（五丈八尺）に付十二圓より十六圓、越前福井白奉書紬一疋（五丈七八尺）に付五圓三十錢より六圓、川越白龜綾浮織一疋（五丈六七尺）七圓八十錢より八圓五十錢、京都白壁チヨロ一疋（二丈九尺）五圓五十錢より六圓廿錢、上田白紬一疋（五丈六尺）四圓七十錢より五圓八十錢、京都及び桐生白綸子一反（四丈乃至四尺五六尺）四圓三十錢より六圓五十錢、京お召巾廣一反（三丈）五圓五十錢より七圓八十錢、桐生お召縮緬一反（二丈九尺）四圓八十錢より六圓五十錢まで位ゐなり

○白米小賣目場　（一等米）一斗三升八合（二等米）一斗四升五合（三等米）一斗四升九合（四等米）一斗六升（五等米）一斗六升九合なり

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎御伽草

○六人連の旅　散遊亭　園蝶　述

明けましてお目出たうございます相變ッて益々御贔負の程を願ひ上ます、扨て園蝶は相變らず新年早々から下らぬ事を一席申し上ます、世の中は一人で美いことと仕やうといふ事は出來ないものだと承はッて居ります何でも人には得手々々のあるもので一人で米も作り機も織り家も建るといふやうな都合のよい事は出來ませんソコで世の中の開けるに隨ひ益々分業といふ事が行はれ夫々に專門家が出來てこの專門家が寄合仕事をするので物事が成就し互ひに利益を得る事が出來る此專門家と能く集めて能く使ふものは乃ち英雄であるといふお笑ひ咄しでございます、只今の事ではございませんまた日本の事でもございません或る時或る國に或る武官が非職となッて僅かの月給を頂戴して暮して居りました、世の中に生れて斯な碌々した事ではいかん何でも出世がしたいソレには旅をするがよいと考へ住所を出立して山道に掛りますと一人の男が草か藁を拔くやうに見る間に五六本の大木を根から引こぬいて居りますから此方は驚きながらその男に向ひ家來となッてともに旅を仕ないかと尋ねますとその男は承諾して「此薪を一寸家まで運んで置てお供を致ませう」といひながら彼の大木を一本取ッて折り曲げそれで他の大本四五本を括ッて家へ持ッて歸りましたが直に出て參り「サアお供を致しませう」と是から二人連で少し參りますと獵人が鐵炮を以て頻りに覘を附けて居りますから彼の武官が何を打つのであると尋ねますと獵人は「ヘイ爰から二里ばかり隔ッて居る所の草の葉に蚊が一疋とまッて居りますからその蚊の左りの眼を打ッてやらうと思ッて……」武官「ハアそれは妙だ、何と己が供をして旅を仕ないか」と問ひますと獵人も承諾し三人連で出掛けましたスルと道傍の農家に大きな風車が七ッ建てございます日本には大な風車がございませんが外國の田舍には風の力で粉を挽たり水を吸んだりする爲めに大な風車が所々にございます今この三人が通りかゝりました所の風車は風がなくて木の葉も搖かないによく廻はッて居ります不思議な事だと思ひながら爰より二里ばかり參りますと少し高い所に一人の男が指先で片方の鼻の穴と押へ片方の鼻の穴で頻りに息をして居ります　武官「何故お前はそんなに鼻息をさして居るのだ、お負に片方で」男「貴所がたはお通り掛けに爰から二里ばかり向

十八

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ふに風車が七ッあッたをご覽にハなりませんでしたか、あれハこの鼻息で廻はッて居るので」武官「ハア成程何だへ己の供をして旅を仕ないか」男「ハイ」と是から四人連で少し行きますとまた一人の男が片足を繩にて括り片足にて木に倚かゝり休むで居ります武官ハ此男に向ひ「お前ハ何故そんなに片足を括ッて居るのだと」問ひますと男が「ヘイ私ハ走る事が上手で兩足を使ひますと餘まり早過て鳥が飛ぶやうでございますから片足で用を足して居ります」武官「ぢやア己れ達と供に旅を仕ないか」とまた五人で出掛ましたスルと向ふより一人の男が帽子を横に冠ッて遣て參ますと此方の人々ハこれと見て皆々「妙な容貌ぢやアないか何故眞正に冠らないのだよ」男「何して之を本眞に冠らうものなら俄に空氣が寒くなッて飛ぶ鳥まで凍えて落ますから…」武官「ぢやア己れの供をして行ないか」男「ヘイ」と茲で六人連れとなり是から此六人で旅を致しましたが此先ハ何なりますか此次に申上ます

○數學問題（答ハ本月廿日まで）

童子あり外國の語を學ぶに一週間にして百七十五語を暗記せり若しこの童子一ヶ年間怠らず勉強する時ハ幾何語を暗記し得るや但し一年ハ三百六十五日なり

○考へ物の題（同上）

左の歌ハ本朝の人物にて誰を詠せしや

山櫻くらまの奥に咲そめてやしまの外ににほふ春風

○前々號數學問題の答式

代數一次方程式

$24\times18=27\times x$
$432=27x$
$-27x=-432$
$27x=432$
$x=16$

（代數の解答者）根岸中村ひろ子

$18\times24=432$
$432\div27=16$
答十六間

（解答者）品川木村ひさ、東京間々つね、中村かね子、大井房吉、三浦と山本ふじ、石川頼一、千葉市原チカ女、濱松矢部かく、備前岡山日下の一土人、大坂近藤（和算の答ハ取らず）

○前々號考へ物の答

（兒嶋高德）根岸中村ひろ子、三浦と、間々つね、中村かね子、山本ふじ、石川頼一、千葉市原チカ女、濱松矢部のく、備前岡山日下の一土人、大阪近藤、同今橋はり、同吉岡常吉、陸前栗原郡文字村小野定代、水戸渦巻つね、上州野田はつ、信州寒澤深雪

◎寄書

○春風春水一時來　東京三田　中村のね子

山河の氷もいつのとけそめてけさふきおくる嶺の春かせ

〔記者曰す投書家諸君のうち以下次號として寄せらるゝもの多かれども如何なる名文にても全からざるハ載せ不申〕

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

驛遞局認可

教育時論第六十一號目次

○社說○本年中教育ノ沿革○北海道教育餘論○婚姻早晚論○小學教員ト戸長トノ間柄○小學教員ニ勳賞及年金ヲ附與スルノ意見
○輿論一班○試驗問題ノ撰擇法○實業教育ノ困難○教育時論第五十八號ノ社說ヲ讀ム（ゑ、ひ）○
○論說○猶我ガ教育ノ眞正ナル獨立ヲ欲セサルヤ（自由所樓學主人稿）○校外教授論（和田嘉衛）○改正小學授業ノ方案（山田大助）○
○學術○男尊女卑ノ是非得失（加藤弘之君演述）○
○雜記○えくとりのくら（れ、と）○英文二節○行雄經松之說（高嶋平三郎）○
○傳記○彌爾學術傳○軍の哥（鳥居忱君作）○家庭教育保育の心得
○內外雜纂○三十餘件○廣告○數十件

發兌所　東京下谷練塀町十四番地　開發社

教育雜誌

每月三回發兌●正價一冊金八錢●全國中配達無料●前金の外一切遞送せず●郵券代用の向ハ遞送費御自辨●本月五日第二十一號刊行●目錄合計五十餘件

本誌ハ青年學生の智德と發育するを以て目的とす●記載種目ハ●官令摘錄●社說●學術（地理、天文、修身、法教、政治、法律、論理、心理、修辭、衞生、理化、博物等）●技藝（書畫、音樂、遊戲、農業、工業、製造、器械、園藝等）●傳記●史談●歌俳詞曲●詩文●漢學講義●隨筆●懸賞論文●隱語寓言●算術●復文●格言●學事質問●穎才藝苑●中外雜報●羅馬字談●英學獨修（りーどる獨學、地理書獨學、會話獨學、歷史獨學等）等にして每號處々密畫を挿入し印刷鮮明、紙質上等世間實に其比を見ざるの良雜誌なり●本

月より多く傍訓を用ひ又た每號附錄を添ゆ●本誌ハ夙に開卷有益、學生必讀の好評を賜ハり益勉强紙面改良仕候處先頃より明宮樣の御爲御覽
內省
より御用被命弊社の光榮之に過るものなく爾來全國各地の師範學校中小學校等より引續御註文を蒙り社運日增隆盛相成候に付てハ尙は此上とも好材料を博集し江湖諸君の御愛顧に相酬ひ可申何卒家に修學の男女子あらせらるゝ御向ハ陸續御用向の程厚望の至に奉存候
本社ハ回金と怠たる賣捌所へハ雜誌一切差出さず候に付愛顧諸君ハ斯ゝる賣捌所の言を信せず速に本社へ御註文御申越被下度候●學藝雜誌當分休刊

發行所　東京北豐嶋郡金杉村二百六十三番地　贊育社
大賣捌所　東京神田區淡路町一丁目　巖々堂

謹賀新年

松本義弘
初鹿野錦五郎

本誌代價表

壹冊	正價金四錢	此郵稅壹錢
拾冊	同金三拾八錢	同拾錢
二拾冊	同金七拾五錢	同二拾錢
三拾冊	同金壹圓拾錢	同三拾錢
四拾冊	同金壹圓四拾錢	同四拾錢

但シ東京十五區內郵稅不申請

本舍は御註文有之と雖とも前金御送附無之間ハ雜誌配達不仕事に相定候に付御註文の節ハ必ず代價郵稅共郵便爲替又ハ通運便にて御送附あらんことを希ふ●郵券代用ハ壹錢切手にて一割增し●郵便爲替ハ芝區芝口郵便局へ御振込み其爲替券と本舍へ御送附可被下候但し東京十五區內ハ御斷り無之間ハ引續き配達仕候

發行所　東京々橋區南鍋町貳丁目拾壹番地　績文舍
持主兼印刷人　松本義弘
編輯人　初鹿野錦五郎

大賣捌
東京芝區愛宕町一丁目三番地　修正堂
同　神田區淡路町　巖々堂
同　神田區佐柄木町一番地　東海堂
大坂備後町四丁目　同　岡嶋文店